

CSRレポートに対する第三者による所見



神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦

事業を通じた地球環境への貢献

東芝グループは、地球環境問題を最重要課題として取り上げ、事業活動を通じて貢献していく姿勢を経営トップが示し、報告書ではその具体的な内容が詳細に説明されています。事業活動を通じた社会への貢献はCSRの核心であり、この姿勢は高く評価できます。東芝グループの経営資源を最大限に生かした取り組みを継続され、地球環境の保全に大きな成果を達成されることを期待します。

ISO26000に準拠した編集方針

今年度の報告書の特徴は、ISO26000 (DIS) に示されている7つの中核的な社会責任事項にしたがって、東芝グループの活動を報告されていることです。これは、CSR報告書を国際的な文脈で理解してもらうために、意義のある試みであると思われます。今後は、これらの7つの中核課題それぞれについて、東芝グループにとってのマテリアリティやKPIの選択についての説明を追加されると、より活動が具体的に、その年度の進捗が明確になると思います。

ステイクホルダー・エンゲージメントの強化

東芝グループの報告書の特徴は、ステイクホルダー・エンゲージメントをベースに、CSR活動の内容や報告のあり方を検討されているところにあります。今年度の報告書でも、さまざまなテーマごとにさまざまな有識者の意見が掲載されています。これらの活動は、東芝グループのCSR活動の基礎として高く評価できます。さらに、東芝グループ全体のCSR経営について、総括的なダイアログを考案されても良い時期に差し掛かっているかもしれません。東芝グループが生み出す社会的価値について社会と対話することは、CSR経営の強化につながると確信します。

バリューチェーンを意識したCSR経営を

マテリアリティを重視した東芝グループのCSR経営はこれまで十分な社会的評価を受けて来ました。将来的課題として、東芝グループのバリューチェーンという視点から、CSRマテリアリティをブレイクダウンしていくことも重要と考えます。特に、環境貢献という最重要課題を頂点にして、バリューチェーン全体でそれをどのように支え発展させるのか、という視点が、次の段階のCSR経営における課題として取り組む価値があると思います。今後のさらなる発展を強く期待します。

〔略歴〕

大阪市立大学大学院経営学研究科修了。博士（経営学）。2001年より現職。
2003年研究成果活用企業「環境管理会計研究所」創設。経済産業省「マテリアル
ローコスト会計開発普及事業委員会」委員長、環境省「環境報告書ガイドライン検
討委員会」委員等を歴任。著書に『環境経営・会計』（有斐閣）などがある。

第三者所見を受けて

東芝グループのCSR経営の原点は「地球内企業」です。地球環境に先導的な役割を果たし、さらに歴史・文化や慣習など多様性を尊重した事業活動を行い、世界の各地に貢献していくことを目標に推進しています。

東芝グループは「地球内企業」として、事業を通じて地球温暖化という社会的な課題に取り組んでいます。加えて、2004年に支持を宣言しました国連グローバル・コン

パクトの精神に則り、さらに2010年末に発行予定のISO/DIS 26000に定める事項に配慮した活動を行い、社会的な責任を果たしていきたいと考えています。

今後も、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、いただいた國部先生のご意見にもあるとおり、ISO/DIS 26000などの具体的推進事項を明確にしてCSR経営を推進していきますので、よろしくお願ひします。

(株)東芝 CSR推進室